

江戸川水閘門改築（Ⅰ期）工事 工事説明会における質疑・応答

【工事に関するご意見】

- ① 堤防天端道路や現水閘門の通路部分など、歩行者及び自転車が通行しているところは、工事期間中、通行止めになるのか。

→回答

Ⅰ期工事は、現在の水門から下流側 80 m くらいのところで作業を行います。現在通行している通路については、工事期間中も歩行者や自転車の通行は可能です。

- ② 工事用の大型車両については、行徳橋を渡って住宅地内を通ることはないのか。

→回答

工事用の大型車両については、行徳橋を渡ってすぐ右折し、工事現場内の工事用道路を通りますので、住宅地内を通ることはありません。

- ③ 工事の全体像が知りたい。

→回答

水閘門改築工事は、現在の水門から下流側 80 m くらいのところに新しい水閘門を造ることになります。Ⅰ期工事で閘門を造り、Ⅱ期工事で水門を造ります。その後、現在の水閘門を撤去し、新しい水閘門の周辺整備を行ってまいります。

【洪水対応に関するご意見】

- ① 上流から流れてきた水を基本的には今の旧江戸川に流していて、洪水時には江戸川放水路に流すということだが、工事期間中はどうなるのか。

→回答

平常時は行徳可動堰を閉めて、旧江戸川に河川水を流しています。

大きな洪水があった場合には『操作規則』に基づいて行徳可動堰を開けて、江戸川放水路に増水した河川水を流すことになっています。令和元年の台風第 19 号に伴う洪水の時には、行徳可動堰を開けて江戸川放水路に増水した河川水を流しました。今回の工事期間中においても操作規則に基づき、洪水を安全に流下させるための操作を行ってまいります。

【江戸川水閘門の改築工事完成後に関するご意見】

- ① 江戸川水閘門の改築工事が完成すると、現在の堤防天端道路及び水閘門上の通路部分は通れなくなるとのことだが、新たな道路はいつ頃から通れるようになるのか。車も通れるようになるのか。

→回答

水閘門の管理用通路を使用して、現在は歩行者や自転車の通行をしていただいております。新しい水閘門が完成した際には、新しい水閘門の管理用通路を使用し通行していただくことになります。一般車両の通行に関しては、現在の水閘門を撤去した後、一般道路を整備することになります。一般道路については今後、市川市及び江戸川区と調整してまいります。交互通行ができるように考えております。

- ② 新しく出来る閘門については、どのくらいの船が通行出来るのか。防災用の船も通れるのか。

→回答

現在と同等の大きさの船が通航出来る計画としています。江戸川水閘門上流に緊急用船着場があるため、災害時等においても通航することを想定しています。

- ③ 江戸川水閘門の工事が全部完成したら、平場は公園として整備されるのか。また鬱蒼としたサクラなどの樹木や、下草が生い茂って暗い場所となっているが何とかならないか。

→回答

水閘門周辺の整備については、今のところ検討はしておりませんが、江戸川水閘門の整備に伴い周辺の整備も考えて行きたいと思っております。現在の閘門横の鬱蒼とした樹木については、老木化が進んでおり伐採していく予定です。

- ④ 新しく完成する水閘門は、何年間使えるのか。

→回答

維持管理を行いながら、できるだけ長い期間使用していきたいと考えております。

【その他のご意見】

- ① 当地区は東京都の景観地区に指定されているが、改築事業にあたって景観的な配慮はなされているのか。また、現在の江戸川水閘門を、歴史的な構造物なので残すことはしないのか。

→回答

新しく造る水閘門については、東京都の景観条例を考慮し、江戸川河川事務所として景観検討委員会を立ち上げて、設計の段階から周囲の景観になじむよう、設計を行ってまいりました。

現在の水閘門は、耐震性が低いため、残す場合には耐震補強をする必要があります。また、新しい水閘門の支障となることが大きいため、そのままの形で残すことは難しいと考えています。